

始良市子ども・子育て会議 会議録（要点筆記）

会 議 名	令和3年度第1回始良市子ども・子育て会議	
日 時	令和3年6月21日（月）18:30~19:30	
会 場	始良公民館 第3会議室	
出 席 者	委 員	有村委員、山野委員、富重委員、藤谷委員、大川委員、杉尾委員、長尾委員、小門口委員、茶園委員、矢野委員、駒倉委員、堀委員、米田委員、谷口委員 計14名 欠席者：石原委員
	市職員等	保健福祉部長 子どもみらい課長、保育係長、子ども福祉係長、子どもみらい課3名 計7名
傍 聴 人	0人	
議 題 ①既存保育所の認定こども園移行について ②保育所等設置認可について 報 告 ①公立保育所等の民営化について ②（仮称）子ども館（子育て支援拠点施設）について ③令和2年度事業実績報告 その他		
資料1 既存保育所の認定こども園移行について 資料2 保育所等設置認可について 資料3 公立保育所等の民営化について 資料4 （仮称）子ども館（子育て支援拠点施設）について 資料5 令和2年度事業実績報告		
審議 ①既存保育所の認定こども園移行について		
（事務局）	資料1に基づいて、保育所から幼保連携型認定こども園への移行の説明。 ・全体の定員を現在の70名から75名に増加。 ・定員の増加に伴う施設整備は行わない。	

(委員)	小規模保育園からの受け入れ枠の問題について確認したい。小規模保育園からの3歳児の受け皿になるべきであるが、3歳児の2号認定の定員は大丈夫なのか。
(事務局)	保育の定員は60名だが、弾力運用を活用することで71名まで保育ニーズの受け皿として確保ができるということ、さらに3歳児は保育部分(2号認定)を14名、教育部分(1号認定)を5名の最大19名を受け入れて運営しても保育室として十分な広さを確保でき、連携園の児童の受け入れも可能であるとの報告を受けている。
→ 承認	
審議 ②保育所等設置認可について	
(事務局)	資料2に基づき説明。 施設整備や民営化等により県への設置認可申請を要するもので、認可申請にあたり必要となる意見書について審議に諮りたい。
→ 承認	

報告 ①公立保育所等の民営化について ②(仮称)子ども館(子育て支援拠点施設)について ③令和2年度事業実績報告	
(事務局)	会議資料に基づき、説明 ①公立保育所等の民営化について 資料3 ②(仮称)子ども館(子育て支援拠点施設)について 資料4 ③令和2年度事業実績報告 資料5
(委員)	資料4「整備運営庁内検討委員会」は庁舎内の職員のみで構成されているということか。前回の会議の中で基本計画案が示された際、委員の質問に対し「外部委員について今後検討する。」という回答だったが、この検討委員会の中に外部委員は入っているか。

(事務局)	<p>「整備運営庁内検討委員会」については、現時点では外部委員の参加はない。6月に開催した会の中でも「職員のみで検討していくのでは不十分ではないか。」という意見も出た。外部委員の参画を検討するという方針を持っている。</p>
(委員)	<p>認可保育所等の入所事業について、待機児童が91人となっている。施設等は増えてきていると認識しているが、そのことを踏まえて待機児童は現在どのような状況にあるか。また今後の対策をどう考えているか。</p>
(事務局)	<p>資料5で示している待機児童の令和2年度実績は、令和2年4月1日付の数字。令和3年4月については、昨年度、宮島わらべ保育園（定員60名）と小規模保育施設なごみ保育園（定員19名）の二つの事業所が開所していることなどから、待機児童数については20名以下になるという見込み。</p> <p>また現在、幼保連携型認定こども園太陽の風の施設整備も予定されていることから、来年度の待機児童も変化が見込まれる。</p>
(委員)	<p>「保育体制強化事業」について。令和2年度は4施設ということで、その施設名と配置のための財政支援の概要を示してほしい。</p>
(事務局)	<p>令和2年度の4施設は加治木の「かじのき保育園」「かずみ保育園」「せんとり保育園」「川野保育所」である。</p> <p>事業の内容は、基本的に人件費部分の補助。保育所内の清掃や遊具の消毒、給食の配膳等保育の周辺業務など、保育士の補助業務に対し、その人件費の一部を補助するものである。</p>
(委員)	<p>令和3年度はどうなっているか。実施施設は増えるのか。</p>
(事務局)	<p>令和3年度も事業は行われる。実施施設も増える予定である。</p> <p>申請を7月中に受け付ける予定。対象の施設との協議を進めながら事業を進めたい。</p>
(委員)	<p>20ページの母子健康手帳交付について。平成30年から令和元年にかけては100名ほど減少したが、今年度はまた100近い数が増えている。この数字は単純に母子健康手帳を交付した数と見ていいのか。今年度出生が100近く増えると見ていいのか。待機児童との関連や今後の施設の数や推移に大きく関わってくると思う。</p>

(事務局)	母子健康手帳については近年600前後で推移している。始良市の場合、入れ替わりが激しいという特徴もある。600前後で上がったたり下がったりして推移している。
その他	
(委員)	<p>5月下旬の日経新聞の記事を紹介したい。「厚生労働省は26日、2025年に保育所の利用児童がピークに達するという試算を公表した。想定以上に速い少子化で、地方だけではなく都市部でも定員割れが出てくる。」ということ指摘している。何度も言っているが、保育所等を増やすのは簡単だが、10年後20年後を見据えた施策をとっていただきたい。</p> <p>今2020年時点で全国の保育園・幼稚園を利用しているのは270万人。2015年と比べると30万人くらい増えている。実際必要としている人も増えていて、待機児童が増えているが2025年300万人をピークにして後は落ちていくだろうという試算が出ている。2025年といえば、あと4年しかない。</p> <p>始良市の場合、この事例にそのまま該当はしないのかも知れないが、全国で206園を運営している事業所が、2020年度都内の保育所を4施設閉所している事実もある。そういったことも含めて、今後の施策については十分に将来を見据えて考えていただきたい。</p>
(事務局)	<p>2025年の問題については、子どもだけではなく高齢化も含めての課題であると認識している。始良市においても高齢少子化問題は出てくる。</p> <p>保育所等については、待機児童は大方の目途がついたように考えている。今後の申請については、今までとは違った視点で考える必要がある。</p> <p>ただ、ピークが近く今後減少が考えられるということもあるが、市としては若い世代やいろいろな方が始良市を選んで住んでもらうための施策も同時に進めていかなければならないと考えている。</p>
(委員)	配布された子ども館の資料について、取り扱いや活用について説明を求める。市民への公表はどうなっているか。
(事務局)	<p>子育て支援拠点施設の基本設計業務で採択された技術提案書である。提案なので、このまま整備されるというものではないということをご承知いただきたい。パブリックコメント等を通して使いやすい施設になるよう進めていきたい。</p> <p>8社から技術提案を受けて、堂園設計株式会社の提案が選ばれた。これをたたき台にして、今後運営方針ということで子育て世代や実際利用をされる方の意見などを踏まえ中身を充実させ、末永く使っていただける施設を目指し多くの意見を伺っていきたい。資料はホームページ等で公開している。</p>

(委員)	資料中の表現の仕方について、工夫をすることでより趣旨が伝わりやすくなる部分がある。意見としたい。
(事務局)	表現については、事業者と検討する。 連絡：本会議の第2回を10月、第3回を2月に計画している。
(事務局)	令和3年度第1回子ども・子育て会議を閉会